

社会基盤と日本の未来 —土木工学の役割—

安全・安心で豊かな暮らしを支えるための防災・減災、環境との調和・共生、計画や建設、維持・管理・保全に関する現在の最新技術や学術上の問題点等を紹介し、「土木工学」の役割について説明します。

時間 13:00～16:30
会場 東千田キャンパス (広島市)
定員 50人 (どなたでも受講できます)
受講料 4,000円



9
21
(土)

1回 自転車の居場所は?—都市交通と自転車— 工学研究院 准教授 塚井 誠人

安全でエコな乗り物として自転車は注目を集めていますが、日本の道路交通においては、歩行者と自動車の狭間で曖昧な扱いを受け続けてきました。そこで、2012年発表の自転車交通に関する新しいガイドラインを中心に、都市交通における自転車の役割について、広島の最新の検討事例を交えて紹介します。

2回 水環境をエネルギーの視点から考える 工学研究院 教授 大橋 晶良

地球温暖化をはじめとする様々な環境問題は、エネルギーと深く関わっています。水環境の保全にも膨大なエネルギーが投入されています。しかし、上手く微生物を利用すれば、廃水等からエネルギーを創成することができます。持続可能な社会の構築に向けて、水環境をエネルギーの視点から考えます。

3回 広島市内河川の新しい楽しみ方 工学研究院 准教授 日比野 忠史

広島市は「水の都」でありながら、水を楽しむ環境が整っていません。水の空間を楽しんでいくために何が必要かを考えていきます。美しい「水の都」を実現するための科学、例えば、広島駅を降りて汚れた河川のイメージを払拭するために行なっている実例を紹介します。

9
28
(土)

4回 社会基盤構造物の維持管理と安全 工学研究院 教授 藤井 堅

笹子トンネルの車道部屋根の落下事故など、人の暮らしを支える構造物の老朽化が大きな社会問題となっており、維持管理の重要性が認識されています。ここでは、橋梁の維持管理に焦点を絞り、現状の問題点、維持管理や修繕の基本方針、広島地域の現状と対策について紹介します。

5回 地盤の強さの評価と対策 工学研究院 准教授 一井 康二

がけ崩れなどの地盤災害を防止するためには、地盤の強さを評価し、対策を講じておく必要があります。そこで、地盤の強さの調査法を概説し、弱い地盤を強くする対策法の事例としてのジオシンセティクス*を紹介いたします。* 地盤を補強する等の用途に使用される高分子材料の繊維製品やプラスチック製品。

6回 コンクリートは環境問題を考えています 工学研究院 教授 河合 研三

コンクリートにはセメント、水、砂、砂利などが用いられますが、セメント製造では大量の産業副産物や産業副産物が活用され、天然の砂や砂利の代替として、廃コンクリートや各種スラグ類の活用が研究されています。ここでは、省資源、資源循環に貢献するコンクリートの役割を紹介します。

講座に関するお問合せ

広島大学工学研究科学生支援室(学士課程担当)
TEL:082-424-7516
✉ kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp

お申し込み (詳細はホームページをご覧ください。)

広島大学エクステンションセンター
〒739-8511 東広島市鏡山1-3-2 / TEL:082-424-6142
✉ extension-center@office.hiroshima-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/extension>